

## 平成27年第1回中津川市教育委員会（定例会）議事録（要旨）

日 時 平成27年1月16日（金） 午後1時30分

場 所 にぎわいプラザ 4-1会議室

出席委員 小幡 隆徳 松田 幸博 田島 雅子  
小栗 仁志 大井 文高

事務職員 勝事務局長 原文化スポーツ部長  
嶋倉教育次長兼学校教育課長 大塚教育企画課長  
岡本子育て支援対策監兼幼児教育課長  
今井文化スポーツ部次長兼生涯学習スポーツ課長  
小林図書館長兼蛭川済美図書館長 曾我教育研修所長  
辻発達支援センターつくしんぼ所長兼発達相談室長  
山下子育て政策室長 幸協阿木高等学校事務長  
西尾文化スポーツ施設運営推進室長 安彦鉱物博物館長  
楯中央公民館長

会議日程 1 開 会  
2 前回議事録の承認  
3 教 育 長 報 告  
4 議 事  
5 閉 会

番 号	議 題	結 果
議第1号	平成27年度中津川市教育委員会主要事業について	承 認

【開 会】

【議 事】

【委員長】議事に入ります。日程第1、議第1号 平成27年度中津川市教育委員会主要事業について、説明をお願いします。教育企画課長。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

【委員長】文化スポーツ部はこの後ということで、最初の教育企画課のところでご質問、ご意見ありませんか。小栗委員。

【小栗委員】5の27年度校務用と教育用のパソコンの更新について、これは何年計画の何年目ということですか。

【教企課長】基本的に5年使って6年目に更新と考えています。平成20、21年度に一挙に購入したものがありません。平成25年度から更新を始めました。平成27年度は3年度目になります。平成27、28、29で一回りし、30年度から改めて更新したいと考えています。

【委員長】ほかによろしいですか。田島委員。

【田島委員】2の2つ目、総合教育会議について、年に何度行う予定ですか。

【教企課長】総合教育会議の運営の内規をこれから作ります。そこで明らかにしたいと思っています。国では毎月とか四半期に1回までは想定していないようで、年に何度か開催してほしいという言い方でした。ただ、国の意向では毎年と、次の年の事業に影響も大きいので、予算編成の前にはやってほしいというコメントもありました。今のところ何回とはまだ決めていません。

【委員長】第1回目は予想できていますか。

【教企課長】正式には4月1日施行なので、できれば4月に開催できればと思っています。

【教育長】それに先駆けて振興基本計画については、本年度中に何とかまとめ上げたいということです。そのときに市長と打ち合わせするものを、スタートの会議にしたいと思っています。

【委員長】ほかによろしいでしょうか。小栗委員。

【小栗委員】6の27年度西小学校の大規模改修では、災害対策を含めてということで、具体的に話は進んでいますか。蓄電池の設置とあります。今後必須だと思いますが、効率のいい蓄電池がまだ出ていないのが現状です。どれぐらいの容量のものを設置するなどの具体的な話も進んでいますか。

【教企課長】今、市全体の予算編成の大詰めで、今日も部長会の報告がありましたが、財源が市全体で10億円ほど足りないのに、蓄電池は切る材料になっています。多分、想定では西小学校の蓄電池は設置できませんが、体育館に夜間避難した方々の照明として、全灯ではなく1つ2つの照明を点けて数時間しかもたないものしか付けられない計画です。燃料を使って発電する発電機と組み合わせてやっていけれ

ばと考えています。

【小栗委員】仕事柄蓄電池やその資料を見たりしますが、まだ相当コスト的に高く容量もさほど大きくありません。設置できればいいと思いますが、予算の枠を考えるなら、発電機の方がいいのではと思います。それと、市長にお会いするときにもお話しするのですが、学校や避難所になるところに備品が置いていないのは、中津川市の最大のネックだと思います。市役所の隣に備品庫がありますが、避難所に指定されていてもそこに必要な毛布、段ボール、非常食などが置いていないのは、避難所として足り得るのかなとかねてから思っていました。一度には難しいですが、どこかで始めないといけないので、考えながらやっていただくといいと思います。要望です。

【教企課長】少ないながらも置いてあるのが、加子母中学校と第一中学校です。第一中学校には毛布がないこともありますので、できる限り防災担当とも相談しながら進めていきたいと思っています。

【松田委員】今のお話は、私からもお話ししたと思います。学校が避難所になった場合の食料品などの備蓄庫があって、防災の日などに入れ替えのための地域の人との炊き出しなどに利用ができればいいとお話ししました。物があってもどうしたらいいか分からないことも起こり得るので、訓練を兼ねて入れ替えをしていくことも必要だという気がします。意見です。それと、5のパソコン関係で、そろそろタッチセンサー式のものを導入していかないとまずいだろうと。時代はそうなっています。今後は学校としてもなるべく新しい物を入れていく必要があると思います。その辺をどうお考えかですか。もう一つ、入れ替えの対象になるV i s t a機の処分はどうなりますか。

【教企課長】タッチセンサー式の件ですか、平成26年度から小学校ではタブレット式にしていきたいということで先行しています。中学校では情報教育という科目もあり、まだタッチパネル式には移行せずに従来のデスクトップ型でいこうと思っています。小学校はパソコン室へ行くというスタイルから、パソコンが自分の教室に来て、グループになってみんなで触りながらやる使い方にしてほしいということで、タブレット型にしていきたいと思っています。いきなりi P a dや本当のタブレットにしてしまうと若干戸惑いもあるかもしれないので、割高ではありますが、タッチパネルを外して、タブレットとしても使えるがキーボードも付いているという、ハイブリッド型と言われているタイプで、平成26、27年度は行ってみたいと思っています。順次対応していきたいと思っています。

処分については、少し前にも南小学校のパソコン室を見に行ったところ、見た目はまだまだきれいなので、処分はせずに各教室に持っていくことや社会教育的な使い途はないかと担当と考えています。

【松田委員】ハイブリッド型の方がいろいろな使い途があるので非常にいいと思い

ます。今年の秋頃ウィンドウズのOSがまた変わるので、学校ではなるべく新しい物を導入できるかと思っています。処分については、使い途といっても古いOSだと難しい部分があるかと思っています。ある程度の金額で引き取っていただけるようであれば、少しでも新しい物をその原資にすればと思います。

【委員長】ほかによろしいですか。

では、学校教育課の主要事業についてのご質問、ご意見ありませんか。田島委員。

【田島委員】1、2の項目を設けたことで、大変工夫できていて分かりやすい書面になっています。1（1）で保護者というのは誰なのか、それと、どんな方法を使っているのか教えてください。

【教育次長】学力アップについては、家庭で取り組むときに、小学校、中学校、幼稚園、保育園の別々の時期にやるとあまり効果が上がらないので、取り組みの時期をそろえたり、取り組みのシートについて市で共通したものを準備します。もちろん段階ごとに違うものですが。そんなことで一緒に取り組みをして効果を上げようとしています。

【田島委員】保護者というのは児童生徒の父母で、PTAの役員などではないわけですね。では、その方法はどのようなものですか。一方的に学校側から親に配布やお知らせするだけではないですね。

【教育次長】取り組みシートや取り組み期間を設けて、そのときにこうやりましょうと企画したり、学校から家庭や子どもに向けての発信をしたりします。小さい子の場合には親に発信する場合がありますが、大きい子の場合にはこどもに対して発信します。それを学校へピックアップして、情報提供してもらおうという双方向の取り組みをしています。

【教育長】どのように広報するかということだと思います。たとえば、年度初めのPTAの参観日などでお話をしたりすることを今までも進めてきていますので、そういう形をさらに充実させればと思っております。

【田島委員】親に発信することと、もう一つは親からこちらにいただくという大きな意味があると思います。その垣根があまり高くないように、十分親からの意見がもらえるように配慮をお願いします。

【委員長】要望ですが、学校で問題があることが見つけられる観点で、個への対応がものすごく大事だと思います。大きく網をかける部分と、しっかりと個に対応するところをやっていただき、それを実証していただくと有り難く思います。よろしくをお願いします。ほかによろしいでしょうか。田島委員。

【田島委員】（3）（ア）学校司書、学校図書館司書の継続9名ということで、予算を確保してくださるので有り難いです。子どもたちと話しているときに、自分の狭い範囲の中でしか判断がつかず、人に相談もできず判断をしてしまう子の親に、子どもが本を好きかと聞いたら「本が大好きでたくさん読むんです。百冊読書もク

リアした」と安心してみえます。こちらで資質の向上を課題に挙げるなら「百冊読んだから安心しないで」と。本の質を向上させないといけないし、何を読んでいるか親が把握してあげるのがそれにつながると思うので、そういう配慮もお願いします。

【教育長】質の向上にかかわる部分は、学校では個人の読書ファイルを作っています。この中でどのように子どもが読書しているのかを把握できるようになっています。先進的に取り組んでいる学校を回ると、これが保護者とも共有されていて双方向で、あるいは図書館まつりのときには親子読書をしてお互いに交流することをやっています。もう一つ、司書に働きかけているのが、単に読んだ本のタイトルだけではなく、一言でいいから自分がその本に対してどう思ったのか、あるいはこの本はこういうことが書いてあるということを記録として残しておけると、自分が読んだ本で学んだこと、知ったことの記録になるので、読書カードの様式をもう少し考えたらどうかという話もしています。

【委員長】ほかによろしいですか。田島委員。

【田島委員】図書館の司書さんたちにお会いしたことがあります。本当に意欲的な方々ばかりで頼もしい限りですが、やはりここで腕の見せ所があるので、やりがいをもってやっていただけると本当にうれしく思います。

もう一つ、2（1）命の教育の推進で、命の尊さ、性教育、情報モラル教育等を推進するとあります。私は薬物乱用防止に関してのボランティアをしています。最近危険ドラッグのことが毎日のように新聞、ニュースに出てきます。これはいくら法が規制してもイタチごっこで、お金が絡みどんどん増えていく、たやすく手に入るようになってしまうものだと思います。ここの中に薬物に関しての条項も入れてほしいと思います。なぜかという、年1回、学校では薬物乱用防止の講座が必ず設けられます。年1回ではもう足りない時期に来ていると思います。ことあるごとに薬物乱用はいけないことを浸透させていかないと、これからの社会では取り返しのつかないことになると思います。いかがでしょうか。

【教育次長】一つの命の尊さ、性教育、情報モラル、すべて重なっているもので、平成18年の事件を通してこれができたのですが、もう10年になろうとしている段階で、そのときに作った計画はそれが全てではなく、毎回見直しながらやっています。情報モラルについてもどんどん内容が変わっていて、その中に薬物の乱用に含まれるようなことも出てきていますし、性教育に関しても同じですので、今お話のあったことも盛り込みながら学校で工夫して取り組んでいきたいと思っています。

【委員長】よろしくお願いします。ほかによろしいでしょうか。小栗委員。

【小栗委員】1の学力向上支援事業の人的支援の（2）（ア）有資格者21名は、今雇っている人を継続する意味もあると思いますが、新たな人を入れることもありますか。

【教育次長】両方あります。今使っている人をそのまま使う場合もありますし、今使っている人が県費で任用される場合もあります。さらに、県の先生となって合格していく人もあります。新たな人材発掘も踏まえて進めているところです。

【小栗委員】人材を確保するというのは難しいことだと思います。何か27年度の確保に当たって、新たにやっていく試みが構想としてあるなら教えてください。

【教育次長】予算が限られている中で人をいかに確保するのは、本当に大きな課題です。先ほど人数を減らしたとか増やしたという話をしましたが、中津川市の目玉は（ア）から（エ）までの指導助手たち、違う人もありますが、月給でお金を支払うようになっていて、これは他市にないところなので、そういう制度がある中津川で働いてくださいということで人を集めています。また、指導助手1人の費用で、パートタイムにすると2、3人雇うことができるので、その辺で人をうまく増やしたりして工夫して取り組んでいます。市の広報等で募集をかけて来てもらった人と面談をしてやっていますし、また、長野県南木曾町からもご紹介いただいたり、こちらから紹介したりしてやりとりして、地理的に不利な状況でも努力しています。いい情報がありましたらぜひお願いします。

【田島委員】人に関して本当にいろいろとやりくりしておられて、大変だったなど見て思います。今年の退職する先生方はいかがですか。

【教育次長】退職される先生も10名余りありますので、うまく市で使える先生は使っていきたいと思います。学校では（ア）のびのび学習支援というよりも、特別に支援の必要な人に対して支援がほしいということをとくさん要求しています。そういうことに長けた人やそういう意欲のある方は、退職された人も含めてお願いしたいと思っています。

【委員長】2（4）サマー・サイエンス・スクールについては、非常にいい中津川の取り組みとして続いてきているのですが、もう少し広く広報することがこれからは特に大事だと思います。全国の中学2年生を対象にどのように広報するのか、十分できるのか心配します。どうでしょうか。教育次長。

【教育次長】市内の子どもたちについては、市の広報や学校から直接配布したり啓発してもらって集めています。インターネットや新聞等にも掲載して全国的に集めています。意欲のある人はホームページから探して遠方からも参加してくれます。そういう子どもたちと中津川市の子どもとの交流ができることがすごくいいことだと思います。いろいろな方面から広報していきたいと思っています。

【委員長】ありがとうございます。予算のない中での広報になりますので、そういう方法に頼るしかないと思います。よろしくお願いします。ほかによろしいですか。

では、教育研修所の事業について、ご質問、ご意見等ありませんか。松田委員。

【松田委員】研究発表会を我々も見学させていただくのですが、授業を見て、その後に先生方の討議、意見を言うていただく時間があります。このところ、非常に

活発ではなくなってきたという気がします。私が委員になった初めのうちは意見、質問がたくさん出ていた気がします。その辺で何かお感じになっていることがあればお願いします。

【教研所長】昨年までは研究授業をやった後、全体会でその学校で研究してきたことを全員が集まったところで発表して、市の研修所から指導、講評という形で終わっているパターンが多くありました。そうすると、先生方は授業を見て話を聞いて帰っていくというやや受身的な捉え方になってしまうので、それを改善しようと、今年度から各研究発表会の際には、分科会という形で授業研究会を公開した授業ごとに必ず位置付けるようにしました。それがまだ今年1年目ですので、まだ慣れていない部分もあると思いますし、その辺の趣旨が参加される先生方に十分徹底されていないところがあると思いますので、来年度も同じような方向で研究発表会を設定していきたいと思います。たくさんの意見をもって、事前に資料等も配布されますのでそちらにも目を通して、実際の子どもたちの姿で討議が行われるように先生方に啓発を図っていきたいと考えています。

【松田委員】我々も授業を見学させていただき、ほかの先生方も後ろで見えらして、その後、もしかしたらあなたはここへ行けというのがあるのかもしれませんが、授業をされた先生とそれを見学された先生が、その教室で意見交換をするというのは以前からあったような気がします。私はそのことを言っています。よく覚えているのは、何年か前に田瀬へ行ったとき、非常に活発な意見交換をされていた記憶があります。高山かもしれません。こんなに頑張っているなど感動して帰ってきました。最近それがちょっと少ないような気がしています。以前から同じような形ではやっていたような気がします。勘違いでしょうか。

【委員長】今の教育研修所長の説明は、今年度から中津川市の研究発表については必ずこういうパターンであるということで、授業を見られた後、その授業についての研究討議をその授業を見た人たちで行うことにされたということです。その前は、パターンがそれぞれの学校に任されていることがありましたので、研究討議をやる場所もあつたと思いますし、全体会で済ませてしまった場所もあつたということです。それを今年からはきちんとやるようにしたというご説明です。松田委員は内容として、もう少し頑張ってもらいたいと感じられたということですね。

【委員長】ほかにはどうでしょうか。田島委員。

【田島委員】実践論文の表彰式があります。それを発表する機会があります。そういうときもそうですし、今年度、1年生、2年生の教員の勉強の発表の場を福岡に見に行ったのですが、先生方がこんなに頑張っているところを親に見てもらいたいと思うんです。最近の風潮で先生が糾弾され萎縮してしまうとか、頑張っているという姿を見ていただければ、少しは理解していただき共有していただけるんじゃないかと思います。

【教研所長】確かにそういう部分はあると思います。やはり頑張っている先生方の姿や努力の成果は、保護者の方も含めて地域社会の方にも分かっていただく努力もしていかないといけないと思います。今回の実践研究論文の発表会では、会場の都合などもあり、なかなか保護者まで対象を広げてということにはなりません、市P連などに広げていくことは可能だと考えますので、今後検討してみたいと思います。

【田島委員】昼間行われるのが通例ですが、保護者の方が見られるように夜行うとか。研究発表会するとき、親さんに聞くと「今日は研究発表だからうちの子は帰ってきた」という言葉があるんですが、研究発表が何なのか、どんなふうに行っているかは多分把握されていないと思います。学校が開かれていないということにもつながると思うんです。今の社会、どちらも協力しながら子育てしていかなければいけないことを、風潮として皆さん分かっておいでなので、できるだけ先生方が毎日何をやっているか、一月、一年、ただ教壇の前に立って教えているだけではないということ、少しでも分かっていただきたいと思います。

【教研所長】ご意見をいただいたように、各学校が上手に保護者に発信していくことも大事だと思いますし、研究発表している学校がこれだという視点をきちんと持って誰にも分かるように発信する、教育関係者だけではなく一般の人にも分かる形で発信することも大事だと思いますので、そういうことも視野に入れながら、研究指定校、研究実践論文の発表会等、こちらが主催するものも含めて考えていきたいと思います。

【委員長】ほかによろしいでしょうか。松田委員。

【松田委員】以前からお話ししていますが、なるべく、小学校、中学校あたりから新聞を取り入れてほしいと思います。図書室によく子ども新聞などが置いてあるのは目にしますが、活用されているのかどうか若干疑問に思っています。今、大学の入試でも学力ばかりで、社会のことを知らない学生が多すぎて、大学の先生方が本当に困るということを経験などで目にします。社会のことを知るのは非常に大事なことですし、それを小さいうちから目にし、一人立ちするという目標にはそういうことに関心を持つのは本当に大事なことだと思います。何かの機会に新聞を題材にして授業に組み込むなり、ほかの時間で取り組めることがあればいいと思います。たとえば今の円安だと何がよくて何が悪いかということぐらいは、ある程度知っておいてもいいと思います。地元の産業にそれがどう影響するのかというの、地元のことを知るという意味でも非常に大事だと思いますので、社会のことを少しでも知る機会を学校の中で作っていただけるといいと思います。

【委員長】ほかによろしいでしょうか。田島委員。

【田島委員】初めて出会った人に、ポケットに手を入れたままあいさつをするとか、他の方を紹介するときに、自分から紹介してしまうとか、非常に細かいことですが、



そういう気になることが先生方の行いの中にあります。これから道德教育、先日研究を見せていただきましたが、ちゃんと教科書をつくってそれで道德教育を進めていくように今後なっていくのですが、道德教育と私が今言ったことは違うと思うんです。社会通念とか社会常識だと思っんです。道德教育の心の問題も絡んでくると思っんです、そういうことを教える方々がポケットに手を入れて「こんにちは」とあいさつされると信頼性がなくなります。子どもはそれがいいんだと思っんです。私はそういう細かいことが気になるんです。そういうことは、教えていくものなのでしょうか。どういうふうに対処していけばいいのでしょうか。

【教研所長】今指摘されたことは、先生という職業である前に、人間として人との付き合い方のような部分も磨いていかないといけないと思っんです。市の研修所としては、そういう細かいところまでお話ししておりませんが、初任者研修等では社会人としてのマナーや人のかかわり方などについては、いろいろな講話をされたり研修はされていると思っんです。ただ、それを自分のものとして受け止めて活用できるかどうかという部分は、磨いていかないといけないと思っんですし、聞いても右から左では研修をただで終わってしまうので、それに気づける、それを実践につなげていける先生を育てていかななくてはいけないと思っんです。なかなか難しいことですが、これも取り組まなければ前に進まないと思っんですので、そういう現状がある限り何らかの手を打っていく必要はあると思っんです。その辺が非常に欠けているようであれば、市としても研修のメニューとして組み入れていく必要があると思っんです。

【田島委員】先日、成人式に出席し、蛭川の女の子の主張の中ですごいと思っんのは、「私たちはまだ子どもです。意識の中では大人にはなっていない。けれど世間は大人として認める。もう注意をしてもらえなくなります」と言ったことです。大人になると悪いことをしても誰も注意をしてくれない。そういう人としか見なしてくれない。そういう部類の人として付き合ってしまうというのが恐ろしいことです。それが当たり前として、自分は認められると思って生きていってしまうことは非常に怖いことです。人を指導していく立場の人は、どこかで自分を1年に1度なり見直すとか、そういう社会通念を取り入れることをしっかり意識することは非常に大事なことだと思っんですので、よろしくお願ひします。

【委員長】私も学校にいて難しいといつも思っんのですが、たとえばお客さんがみえたときにどの先生がどう対応するかで、その学校そのものが問われてしまうということがあります。そういう怖さについてよく話していました。自分が校長になったとき何をしたかという、たとえば指導主事さんが来たときには、何人かで対応して、その対応の仕方をそこで先生方に教える、分かってもらおうとか、PTAの会で親さんに来てもらうときにはこう対応しようとか、そういう細かいことを管理職あたりが意識してやっっていくことしかな。お互いに注意するということが難しい

ことです。立場を持った者がきちんとしていくことがあると思います。田島委員が言われたことは学校でも意識して、今の教育委員会がそうであるように、私たちが傍に行けば皆さんが立ち上がることが当たり前だと思っていますが、学校ではそれすらも難しいと思いますので、そういったことも含めて、本当に社会的なきちんとした対応ができるようにしていく必要があると思います。ほかにございませんか。小栗委員。

【小栗委員】主要事業の概要のところですか。この間ある講演を聴いたんです。『到知』という経営者の方が読む雑誌があって、本屋には売っていない、年間契約して購読する、人間力を磨く雑誌です。そこの社長の講演です。今の子どもたちは、人を尊敬するという意識が薄れてきているのではないかという話をされました。私もそれを聞いてハッとしました。学校だからということではなく、家庭でも言えることかもしれませんが、今の子どもたちに尊敬する人は誰と聞いたとき、どういう回答があるのかとか、道徳教育の一環かもしれませんが、それを習慣化するか、人を尊敬するというのをやっていると、人の成長にもつながっていくと思います。そういうこともちょっと考えながら、先生たちの研修、最終的には子どもたちにつながると思いますので、そういうこともやっていただければと思います。

【委員長】今、学校には資質向上委員会というのがあったことを思い出しました。そういう形で、学校の組織的な活動も組んでいけると思います。松田委員。

【松田委員】最近特に女子生徒の手紙なんかで、意味がよく分からない文章や絵文字が羅列されています。これは、たとえば学校で何かの感想文を書きなさいとなったとき、きちんとした文章が書けているのでしょうか。

【教研所長】使い分けている部分はあると思います。カジュアルな部分と、学校みたいなおフィシャルな部分を。ただ、学び向上中津川プラン2015で今年から取り組んでいきたいと考えていることの中では、子どもたちの読むことと書くことについて、重点的に指導していかなくてはいけないという状況は出ています。これは昨年度の全国学力テストの結果からも、長い文章がきちんと読み取れないとか、ポイントを絞った言葉に着目できないとか、逆に書く問題になると途端に正答率が下がるか、それに取り組めない子がいるとか、そういう部分で、読むこと、書くことについては、中津川市の子どもたちは課題を抱えているのが事実です。今年から特に学校での指導については、研修所としても力を入れて指導していきたいと思っております。

【松田委員】きちんとした日本語をしゃべれたり書けたりするのは、日本人なので大切なことだと思います。これは習慣だと思いますので、小学校ぐらいからきちんとして取り組んでいく必要があると思います。国語の力を上げるのは大事だと思います。もう一つは、英語などがどうしても必要な世の中になってきています。最近の新聞等では、将来的にはセンター試験の英語の部分はTOEFLのスコアによって満点

扱いにするとか、そんなことが書かれています。そう思うと、やはりTOEFLの試験の傾向なども考えた上で、ただ英語を訳すとかしゃべるだけではないので、社会のことなどきちんと分かっていないと英語での答弁もなかなかできないということもあるので、社会のことも含めて、英語にも親しんでいく環境をもっとどんどん作っていく必要があると思います。たとえば、中学校の英語の専門の先生が小学校をたまにはのぞいてみることもいいかなという気がしますし、子どもたちが英語に親しみやすくするために、去年流行ったアナ雪の英語などを学校で取り扱ってみたり、あるいは音楽の時間にやってみたりすることも一つの方法かもしれません。そういう親しみやすくする方法も考えていっていただけるといいと思います。

【委員長】個人的なことではいけません、自分の孫を見ていて、学力アッププログラムに学校として取り組んでくれていることに心強さを感じます。②に「学校では」とうたっていただけていますが、学校の取り組みが、去年とはまた違って2年生になるとレベルアップして下りてきている。しかも、それを自分だけではなく隣のクラスの子も同じようにやっている。宿題が毎日出て、子どもたちがそれを親の前でやっている姿を見たとき、やはりこういったものがきちんと位置付いていて、学校としての取り組みとしてさらに強化されていくと、本当に本物になっていくと思いましたので、ぜひこの辺は自信をもって進めていただけるといいと思います。

ほかにはよろしいですか。それでは、幼児教育課についてお願いします。田島委員。

【田島委員】3（2）阿木保育園の未満児保育が実施されるということで、27年度の4月から受け入れ開始ですか。

【幼教課長】その通りです。

【田島委員】これは要望があつてのものだと思いますが、どれぐらいの希望者がおられるのですか。

【幼教課長】現時点の状況では、1歳児、2歳児の募集で、1歳児が5名、2歳児が5名で10名応募されています。4名しか入園できません。6名超過しています。

【田島委員】そうすると、兄弟がいて上の子は阿木保育園にいるけれども下の子はよそに預けて仕事に行くという形の親もできてしまうわけですね。

【幼教課長】新制度になると、その辺の必要度が各項目を点数化して、その点数によって入れていく。たとえば兄弟がいれば点数は高くなります。点数化して機械的に選ぶことになります。今言われたようなケースも発生することはあります。

【田島委員】これだけ要望が多いところで4人しか採れないのは、機能的ではなくて申し訳ないのですが、これから増やしていく可能性はあるのでしょうか。

【幼教課長】6人超過とお話ししましたが、この中には今まで旧市内の方に預けていた方もみえますし、地元にできたのでという方もみえますので、基本的には市内全体の中で保育を受けてやっていきたいと思っています。本当に阿木でしかみえな

い方もみえますので、そういう方は当然そこですが、すべて要望される方を満たしていくことは考えていません。

【委員長】ほかにどうですか。田島委員。

【田島委員】1（4）や4（4）、園舎衛生管理、食育の推進とあります。今年は教育長訪問で見せていただいた場所もありました。その中で、草取りなどで手が足りずとても大変だとおっしゃっており、地域の方々に助けていただいたり、うまく地域の方々にコンタクトを取って力になってもらうということを図っていければいい分違うと思います。先日山口幼稚園が表彰されていまして。ああいうことを広めたい。すばらしいことです。少し時間が経ってはいましたが、一夜にして整地ができてとか、すばらしい地域の方の協力があったということです。多分、ほかの保育園、幼稚園の地域の方々も手伝うという意識はきっとあると思います。それを上手に引き出して活用していけば、どちらも有意義に時が過ごせると思います。できるだけ手伝ってもらえるように努力していただくといいと思います。

【幼教課長】各幼保共に地域との共生の中でやっていくように保育に取り組んでおります。一層充実するようにやっていきたいと思っております。

【委員長】続きまして、阿木高等学校の事業概要について、ご質問、ご意見等お願いいたします。田島委員。

【田島委員】中津川市立の唯一の高等学校ということで、阿木高等学校の重要性を本当に感じています。ほとんどが進学ではなくて社会に出て行く子たちだと認識しています。自信を持って、即戦力になれるように指導をしていただいていると思います。去年も申し上げたんですが、社会に出て恥をかかないように、侮られないように、ばかにされないようにということで、社会常識もしっかりと身に付けさせてあげたいと思います。もう一つ、阿木の社会常識というものもあると思います。そういうものも慎重に吟味して、名古屋に行っても適応できるような指導をしていただけると嬉しく思います。

【委員長】ほかによろしいですか。

それでは、発達支援センターの主要事業について、お願いします。松田委員。

【松田委員】1（1）2段目のかがやきキッズですが、こういう団体に対する補助などは、今のところどのような状況ですか。

【発相室長】直接の担当課が障害援護課で、具体的な補助については把握しておりません。申し訳ありません。

【松田委員】非常に有り難い団体だと思いますし、公共性が非常に高いと思いますので、こういうところに対しては、なるべく援助していただければと思います。施設もあのような施設ですので、場所なり建物を何とかすることも今後考えていくことが大事だと思います。こういう団体がずっと続いて活動してくれることは非常に有り難いことなので、何とか援助する関係も作っていただけたらと思います。

【発相室長】その点に関しましては、障害援護課を初め関係する機関とも連携を取りながら、今後検討していきたいと思っております。とりあえずは、ここに書いてあるような障害児相談支援という形で援助を行っていきます。

【委員長】ほかにはよろしいですか。田島委員。

【田島委員】つくしんぼ、どんぐりを卒業して学校に上がった子どもたちの居場所がないことについて、移動教育委員会に行くと、つくしんぼやどんぐりを卒業した親たちの拠りどころがないという話を聞いていました。そういうものに対して、取り組みはありますか。

【発相室長】不定期ではありますが、OBの親さんの集まりをつくしんぼを会場にして、年に2、3回行ったりすることはあります。

【田島委員】どんぐりの移動教育委員会のおきにおっしゃっていました。どんぐりは5つもあって、隣同志に垣根があるようになかなか寄りにくい状態です。そのところで拠りどころがないとおっしゃっている親御さんもおられるようでした。5教室を統合とありますが、これもすごく難しいことですよね。卒業した親たちの行き場所も考えてあげないといけないし、5つを統合すると機械的に力で統合するわけにはいきません。メリットを考えておられますか。

【発相室長】現在5カ所に分かれており、それぞれ狭い部屋というか、十分でない教室を使っています。つくしんぼと比べて全体では人数が少ないので何とかやっておれる状況です。統合することによって、会場をどこにするかという問題はありますが、たとえば保育園の統合が進んだときには、空いた建物を利用していくつかの教室を使いながらやっていけることになりまして、何よりも指導員が、正規、常雇保育士も含めて1人とか2人という形でやっておりますので、負担が大きいわけです。統合することで、集団で情報を共有し合えば、かなり負担減になってくると思っていますので、その辺は何とか理解を得ながら順次進めていきたいと思えます。

【田島委員】メリットを広めてあげることは大事なことで、そうすることで協力が生まれてくると思えます。もう一つ、どんぐりの移動教育委員会のおきに、遠いところには行けないと言った親に対して、所長が中津川につくしんぼには阿木から来ますとおっしゃいました。そういうことも親御さんたちに広報して、平等という気持ちを持っていただくとか、やっぱり知らせることは大事です。知らせて、それで考えて選択するのですから、困っているではなく、知らせることをたくさんしていただけると、協力も得られると思えます。お願いします。

【委員長】方向性としては、5教室を統合するという進め方をしていくということです。ほかにはよろしいですか。

それでは16ページ、発達相談室の主要事業についてお願いします。なかなか発達相談室そのものの存在が知られていないことが、移動教育委員会でも問題になっておりました。その辺は上手な広報をしていく必要があると思えます。ほかにはど

うでしょうか。田島委員。

【田島委員】広報がとても手が足りなくて忙しいということで、頭も回っていかないのが現実だと思います。しかし、「『広報なかつがわ』に適宜発達障がい理解を深める記事を掲載する」という広報なかつがわ神話が、市の職員にはあると思います。私もずっと昔から、広報なかつがわを見てくれる人の割合はどれだけあるんですかと。広報なかつがわに掲載すればいいということが一つの問題だと思います。私はいつも言うんですが、つくしんぼのある区から発信できないだろうか。まずは隣から、それで隣がまた大きくなっていくとか。何か方法を考えて、一步踏み出していただけると有り難いと思います。

【委員長】広報を工夫してくださいということです。よろしくお願いします。ほかによろしいですか。

それでは、17ページ、子育て政策室の主要事業についてお願いします。小栗委員。

【小栗委員】6②子育てマイページの運営を行い、スマートフォンに対応したアプリ化に取り組むということですが、すでにモデルとなるものはありますか。

【子政室長】子育てマイページはすでに今あり、4000人近い方に登録いただいております。開発した当時は、携帯がスマートフォンよりもガラケーが主流でしたので、ガラケーに対応する形で立ち上がっており、スマホでも見れるよというぐらいの状況です。このところ、登録がなかなかできないとか、不具合について苦情が来ています。スマートフォン対応にしていかなければいけないということで、27年度にはアプリ化に向けての予算も計上して、スムーズな動きのできるものにしていこうと今考えています。

【小栗委員】スマートフォンだと、いろいろなことができるようになると思います。スマートフォンで使えるようにすることによって、こんなことができるという要望や、新しい機能を付け加えるようなことを考えていますか。

【子政室長】今のところどんな機能を付加していくかというところまでは考えていませんが、皆さんの要望もお伺いしながら、より使いやすいものにしていけるといいます。

【小栗委員】広く要望を聞いていただきたい。使うのはお母さん方が中心になると思います。スマートフォン世代で、使いこなしていると思います。なので、いろいろなアプリケーションを使っている中で、こんなことができたらいいなという意見はたくさん持ってみえると思います。いかに情報を集めるかということをやったと、より良いものになると思います。

【委員長】ほかはよろしいですか。田島委員。

【田島委員】7のファミリーサポートセンター事業について。育児と介護を両立し、という部分で、育児が1で介護が9とおっしゃっておられました。先日、子育てネ

ットワークという会議に出て、子育て養成講座を受けた方々からの意見を聞いたら、ファミリーサポートの方々は、様式が違うとか、子どもの扱い方が違うような気がする、満足いかないような気がしているという指摘があったんです。今は介護が9割ということで、ファミリーサポートに登録している方は、育児についての講習を受けておられるのですか。

【子政室長】ファミリーサポートセンター事業というのは、助けたい、援助したい人と、援助されたい人が相互に会員として登録して、会員同士の相互援助という形で出来上がってきたものです。1時間700円というお金は発生していますが、気持ちの上ではボランティアという形で、一般市民が一般市民を助けるサービスです。サービスのサポートの状況を見ると、委員のご指摘のように、大丈夫かなと心配するところもあるのは事実で、私たちもそこは心配をしています。サポーターさん、援助する側のサポーター会員の資質向上ということは、図っていかなくてははいけないと切実に思っています。

【田島委員】預かる子どもは1人ですので、子育て養成講座を受けた方々は非常に自信を持って預かっておられる。で、育児が1割ということは、多分このファミリーサポートの方々は自信をもってと言うことではなく、たくさん情報をもって預かるわけではないとは思いますが。育児が1で介護が9だからもう少し育児の方もということをおっしゃいましたので、同じような研修を受けていただくとか、何かもう少し心配のないようにしていただくと、もっと働く方が利用しやすいのではないかと思いますので、よろしくお願いします。

【委員長】ほかはよろしいですか。それでは、続きまして、生涯学習スポーツ課からご説明をいただいて、あと3課2館のご説明をお願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】それでは、生涯学習スポーツ課の主要事業について、ご質問、ご意見ございましたらお願いします。田島委員。

【田島委員】(3)で、小幡委員長も副委員長として出ておられると思いますが、青少年健全育成推進市民会議の13支部3分会活動の会に、私も委員長のとき2回出させていただき、それぞれの地域の方が自分の時間を割いて取り組んでおられるということで大変ご苦勞な会議でした。年齢層を見ても、自分の子どもたちではなくてひ孫、孫の世代の方たちが取り組んでくださっており、本当によくやってくださっていると感謝して見させていただいたのですが、その中で合併10周年を迎えるけれども、中津川市は一つだという方向に進んでいるとは思いますが、13それぞれの方々の発言ないしは取り仕切る中に、市として垣根を取り払ってみんな1つで協力しましょうという言葉が出てこない。あまり意識してそれを取り仕切っておられないような気がします。随所に中津川市は合併して、もう一つだということをあちらこちらで広めていかないと、学校規模適正化にも影響があったり思いが違

ったりしてしまうので、これだけの方々が集まったときにどこかで「中津川は一つ、垣根を取り払おう」という文言を入れて引っ張っていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【生ス課長】青少年健全育成推進市民会議は、年に2回会議を行っています。それぞれの支部、分科会での活動については、計画なり報告をしていただきながら、情報交換の場を作っております。今までの動きの中では、それぞれの地域の活動をこれだけやっているというアピールの場であるわけです。それはそれで非常に結構なもので、そういったところを我々は今まで成果として挙げていたのですが、これは私見ですが、一つ反省があります。それぞれの地域が一生懸命頑張ってやっていた中で、地域と地域の交流がなかったなということです。これからはやはりそれぞれの活動の中で、もしできることなら交流という部分も含めた方向性も出していただければ、中津川は一つだという委員の思いにも共通する部分が出てくるのかと思います。そういったところ、お聞きしましたので、何とかそういった方法も打ち出していければと思います。支部長にも相談させていただきます。

【委員長】ほかにはよろしいですか。小栗委員。

【小栗委員】3の交流事業の推進の(2)レジストロ市の27年度の受け入れについて。5年前に受け入れがあったと思いますが、そのときと比べて何か特別な計画はありますか。

【生ス課長】会長にすでにご相談していますが、過去は秋の時期でした。この前ブラジルに訪問したときに、今度はぜひ春の桜の咲いている時期に来てくださいのご案内させていただきました。それが、今回4月に訪問していただけるということで、実現してくれるわけですが、桜が咲いているかどうか微妙な時期になってきます。桜を追いかけてどこかへ訪問するといった計画も入れるように考えています。それが大きな目玉の一つです。

【委員長】自然相手なので大変ですが。ほかによろしいですか。

それでは図書館の主要事業についてお願いします。田島委員。

【田島委員】4(1)・人(人的支援)のところで、専門知識を持つ職員による選書や配架等の巡回というところに、選書という言葉があります。図書館員、司書たちの大きなやりの一つが、選書とレファレンスだと思います。中津川図書館でレファレンスを求める人の頻度は分かる範囲で教えてください。

【図書館長】数字的には申し上げる資料がありませんが、かなり高い頻度でレファレンスサービスをしなければならないと、カウンターを見て思っています。ただ、今までの習慣があり、まるで自分の司書のように司書たちに問題を提起して、答えを求めるというスタイルが多く見られますので、図書館として、また職員としてやる範囲を今徹底して、特定の方の司書でなくてたくさんの皆さんの司書として頑張ってもらえるように考えています。



それから、公共図書館の特徴として、少し痴呆になられた方もいらっしゃいます。毎回同じことを聞く方もいますし、それがまたこういうローカリティーの図書館の役割だと私も認識を改めたところがあります。難しいレファレンスだけではなく、本当に生活に密着した問いかけもありますし、またそこには市民課もありますので、市役所の行政に立った質問などもカウンターで受けることがあります。それらすべてをレファレンスとして捉えて、資料なりチラシの提供なり、うちを通して所管課への問い合わせをしてお答えしたり、あらゆる方法でサービスを提供しようと、スタッフ一同でその認識を固めているところです。

【田島委員】まさに図書館のあり方の見本ということですか。館長がおいでになってから、ステージにのぼっていなかった図書館、また図書館員の方々を、本当にスポットライトの当たるところに引き上げてくださって、先月も申し上げましたが、本当にスピードに乗って来館者をたくさん集められて、これで4年、これから5年目を迎えます。私は図書館建設のときに、当時の図書館員たちにお会いして、彼女たちの基本的な考え方を聞いていましたが、それとは全く方向が違ったこの3年半、4年だったと思います。そこで、ついて来ていらっしゃって、非常に活躍していらっしゃると思うんですけど、心底の図書館員たちの理解の様子はどんなものなのでしょうか。

【図書館長】心底ということは私見ということでしょうか。図書館員の意識ということですか。やはり、利用者数が少なかったことがあり、お客様が固定化されていたと思います。それで、そのお客様にとっての図書館というか、利用者の底辺を拡大する課題があったと思います。それと、管理を徹底するという職務に非常にまじめに取り組んでいたと思います。一方で、管理をするあまり自由に欠けていたとか、入りにくいとか、ちょっときまりが厳しすぎるとか、利用者にとっては堅苦しさがあったのかなと思っています。あとは、ボランティアがたくさんいるんですが、そのネットワークができていなかったということで、私は3年半になりますが、作ったことはそれをつなぐ役目だったと思いますので、もともと既存の中津川にあったすばらしいものを拾い上げてきたら今の図書館になったのだというふうに認識しています。

現在、たくさんの視察団が入っています。それは、新しい図書館を建ててにぎわいと呼ぶのは通常のことですが、古いままのにぎわいを作るという、逆に新しいスタイルになってしまったのです。図書館業界の中で。それで、建てなかったデメリットもたくさんありますが、メリットと捉えて、それしかなかった中で作り込んだ図書館が社会の一番新しいスタイルになったんだなと今思っています。来た当初は、誰しもが自分の町の図書館ではなく隣の恵那市の図書館のことを必ず口にして、私は、ここの町の人たちは隣の町を誇りにする市民なんだなと思ったほどでしたが、今はとても自分たちの図書館に誇りを持って、子どもたちからボランティアに加わ

っている高齢者の方々まで、自分たちの手が加わったおかげで自分たちの図書館になったと思っています。また、利用者が増えたことで、みんなの図書館ということで、公德心というか、利用者のスキル、市民のスキルも高くなり、まさに文化スポーツ部の目指している文化で人づくりをするという一端を担えていると自負しております。

【田島委員】私たちには、館長が引っ張っていってくださってみんながちゃんとついてきてくださったという形では見えています。あとは、引っ張られていた人たちが自立して、これからはほかのものを引っ張っていけるように進めていっていただきたいというのが切なる願いです。それと、5（4）ヤングアダルト、大人向けというところが来館者が少ない部分なので、こちらの強化を進めながら、また次の段階に入って走っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【委員長】よろしくお願いします。ほかによろしいですか。

それでは文化振興課の事業についてお願いします。田島委員。

【田島委員】前田青邨大賞、熊谷守一大賞も同じでしょうか、ビエンナーレ、2年に1回だったのが、トリエンナーレ、3年に1回にどちらもなくなってしまった理由を教えてください。

【文振課長】1つの自治体で全国公募展を複数やっているというのは非常に珍しい状況です。こういったものを将来にわたってきちんと続けていくために、お金の部分も少しあるのですが、3年に1度の開催という形にさせていただきました。

【委員長】持続可能な方法を選択したということです。小栗委員。

【小栗委員】島崎藤村文芸祭で新しく2部門追加されるその経緯を教えてください。

【文振課長】短編小説と児童文学を含めて1部門、名前が創作部門になるのかこれから検討するのですが、やはり藤村というと小説もありますので、これまでは俳句、短歌、現代詩、エッセイがあり、本当はやりたかったがそこまでは手が出せなかったところを、実行委員の方々の強い思いもあり、何とかやっていきたいということで、27年度に追加したいということです。

【小栗委員】短編小説もそうですが、児童文学というのは、子どもたちで、書くことが好きだけどそれを披露する機会はあるようであまりないと思うので、サマー・サイエンス・スクールの募集のように、広く公募するようなピーアールする場面をしっかりと作っていただきたいと思います。

【田島委員】3. 文化財の保存の苗木城まつりを実施したいということ。これはすごく重要なことだと思います。リピート率、お城を見に来て次にもう一度来るかなというところが、たくさんお城があれば別ですが、次に何を目的に来てもらうのか、ただ単に出店とか何か演芸をやるとか地域の郷土芸能をやるだけでは、特段のお得感とか、文化的な非常に得なもの、すばらしいものが見えるとか、来年も来ようという充実感を作っていないと、ただ祭りやりました、たこ焼き買いましたでは、

絶対に発展にはつながらないと思います。かなり難しいと思うんですが、いつ頃の予定でしょうか。

【文振課長】開催時期については、苗木遠山史料館の開館したのが11月3日ということで、秋にはいろいろな行事があるんですが、11月3日を目標にしたいと思っています。内容は、実は今、市の観光課と文化振興課、博物館、苗木事務所、そこに地元のまちづくり協議会や区長会、苗木城友の会の方々が一緒になって、苗木城跡を核にした観光地化という部分でやっていこうといういろいろな会議を重ねております。そういった中で具体的にどういうことをやろうということがこれから出てきますので、地元の方々と相談して進めていきたいと思っています。

【田島委員】苗木城、苗木の方々と聞き、苗木城の祭りということになっていそうなんですが、中津川の祭りという形で、中山道などを引き込んで連携して行って、リニアの来る中津川の大きな祭り、そこに歴史、文化が絡みという壮大なものにならないと魅力がやっぱり。これからを見据えた大変難しい祭りを作っていかなければいけないと思いますが、頑張ってください。薪能もなくなっていました。ああいうことも復活しても、文化的に興味のある方々は絶対に来てくださると思うので、そういうことも考慮しながらお願いします。

【委員長】ほかにはいいですか。

それでは鉱物博物館の主要事業についてお願いします。松田委員。

【松田委員】青邨記念館はどうなりますか。

【鉱博館長】青邨記念館の再整備ということになるとと思いますが、文化スポーツ部では、市街地活性化計画の中で美術館機能を有する施設という形で、市内の青邨生誕地に近いところに建設を考えていきたい。27年度からの市総合計画を立てておりますが、その中で早期に計画を立てて、複合施設という形で建設していきたいと考えています。中山道歴史資料館もあと3年ほどでNTTとの契約も切れますので、それも併せて計画していきたいと考えています。

【田島委員】昨年、図書館との連携というのをやっていました。あれは非常に良かったと思うんです。図書館に足を運ぶ人が、では鉱物博物館に行ってみようかという形で、新しい集客というか、新しいファンが見つけれられたのではないかなと思うんです。ここには図書館との連携は書いていなくて、各館共通事業というところで、私が興味を持ったのは、無料入館日ということだったんですが、各館共通事業で何か連携はできないものではないでしょうか。たとえば、鉱物博物館に足を運ぶ、中山道資料館に足を運ぶ、そういう行為をする方は、きっと動けるので違うところで連携をしてあったらまた行くのではないかな。全く行かない人を探すよりも、足を運んでいる方々を移動させるということも、たくさん来ていただくためには考えていった方がいいのではないかなと思います。できれば、何か各館共通の一つの話題などを打ち出して、そこから引っ張ってきたものを楽しむとか、あとは図書館との連携は、非常

に楽しいものだと思うんです。知識の宝庫ですから。せっかくやりかけたんですから、どんどん広めて利用していただきたいと思います。

【鉦博館長】昨年、図書館からいろいろご相談をいただきました。まず図書館で各博物館、美術館等のピーアールをたくさんやっていただきました。11月には図書館に美術館博物館コーナーを1カ月間設置していただき、鉦物や中山道を展示していただき、連携的なことはさせていただいております。

もう一つは、それをスタンプラリーの形で、各博物館、美術館を回ることも、館と館とのつながりになりますが、やらせていただいております。やはり、田島委員の言われる通り、なかなか新規は難しいと思います。開かれた美術館ということですが、来ていただいている人は何度も違うところにも行くと思いますので、そういったことは重要だと考えています。

【委員長】ほかはよろしいですか。松田委員。

【松田委員】中山道歴史資料館ですが、あと3年位で賃貸契約が終わるということです。何年か前にも話題になったことがあります。賃貸料が結構な金額です。そこまで払って必要があるのかものすごく疑問に思います。これならいっそのこと、青邨記念館も新町の空いているところもあるので、造ってしまった方がいいんじゃないか。十分それぐらいのことはできると思いますが、いかがでしょうか。

【鉦博館長】確かに非常に高額な賃貸料で、年間900万円ほどで、10年で9千万です。それならちょっとした建物が建つということです。契約期間が3年ですので、それ以降のことは、中心市街地の中で考えていきたいと思います。

【文ス部長】中山道歴史資料館の賃借料月間約80万円以上となっております。これにつきましては、NTTさんが初期投資を3千万円かけて工事をしているということで、その元を15年間かけてある程度引きたいという思いと、また固定資産税もNTTが払っている点があります。このまま貸せば賃借料も入るという形の設定だと思えます。そういう意味で80万円となっております。実際に高いという思いはあります。金額については、当時はそのような形の契約を結ばせていただいたということです。今後は、3年ということで、中山道の必要な資料、また青邨の日本を代表する絵画を、1つの施設で複数の施設を統廃合する中で、運営経費的にも効果的な施設の運営を目指していくということですが、ここ3年位では建設はできないので、今からそのような建設構想を練って、すぐ対処できる形にしたいと思っております。

【松田委員】そういうことであれば、ぜひ新しいところを作って早く返してしまった方がいいと私は思います。要望として、お願いいたします。

【委員長】要望として、よろしく願いいたします。

ほかはよろしいですか。田島委員。

【田島委員】中山道歴史資料館、遠山資料館、私たちは去年訪問しました。そのと

きに安藤さんは中山道歴史資料館の館長さんで、安藤さんのパワーにかなりびっくりしました。彼はかなりファンをつかんだのではないですか、去年で。かなり歴史ファンというか、また違う意味でのファンもつかんでいらっしゃると思うんです。安藤さんが出てきたから私たちは飛びつけるけど、安藤さんを作っていかなければいけないと思うんです。あれだけのインパクトのある人で、引き寄せられる人というのは非常に見本になります。だから、ああいう方を作っていくって、それで歴史や中山道、苗木城をアピールしていくことはすごく大事なことで、彼は生き物なのでこれからどうなるか分かりませんので、それを継承していく講座なり教え子なりを作っていくって、各館にそういう人が1人でも2人でもいれば、もっと人間的にも引き寄せられます。大事ないい見本が現れてくださったと思うので、そういうこともしていただきたいと思いますと思うんですが、いかがでしょうか。

【鉦博館長】確かに、本当に安藤さんは精力的にピーアール、資料的などころもやっていたいており、学校への出前講座もやっていたいており、あそこも今年入館者がかなり増えてきております。委員が言われる通り、次の人間づくり、館長づくりは大事なことだと思います。ただ、一つ問題があるのは、安藤さんは嘱託なんです。そういったところが、これは市の考え方で、いいのかどうかというのがありますが、これからやはり、リニアと言われていますが、博物館、美術館は地元の大事な資源なので、その辺を磨き上げようと思ったら、言われる通り、次の、また次の図書館長さんや安藤さんといった方を作っていくことが、これから一番大事な課題だと考えます。

【委員長】よろしくお願ひします。

それでは、最後に生涯学習スポーツ課の主要事業についてお願いします。田島委員。

【田島委員】私はスポーツが苦手で、ほとんどスポーツには携わっておりません。1市民1スポーツの推進というところがとても気になります。本当に1市民1スポーツの推進を掲げられるなら、一人一人相談に乗ってくれと思います。「あなたはこんなスポーツがいい」と。これは健康診断と同じような要領で。医者に行く費用が、スポーツをして健康であれば下がっていくので、市の財政にも影響があると思いますので、1人ずつ相談に乗れるような大きなシステムを作り上げていただきたい。たとえば健康診断の通知が来ますので、そういうのに乗るとか、何か積極的に作り上げていただけると私もスポーツができると思います。

【生ス課長】私もスポーツがなかなかできないので、本当にスポーツはしたいのですが、今の課題についても、・の2つ目にプログラミングサービスがそういったアドバイスの個々に対応できる事業にもということで挙げています。具体的にはまだ全然考えがないんですが、できるだけ多くの人たちにスポーツに取り組んでもらえるようなアドバイスができる体制をこの事業で作りに上げていきたいと考えて出し

ました。短期ではなくて、スポーツ推進計画はこれから12年間の期間です。12年間での取り組みと位置付けて、この事業も見ていただければ有り難いと思います。

【委員長】ぜひ健康診断の最後のところにスポーツ課の人がいて、あなたはやっていますかと問いかけていただくといいと思います。

もう一つ要望として、今地域の中でのスポーツが低下していることがありますので、1地域1地域ぐるみスポーツイベントというようなものがやっぱり要るなど。あの地域に行くと、こういうことをやっているというのができてくるといいと思います。もしそんなことにも目を向けていただければならお願いしたいと思います。要望です。

ありがとうございました。大変慎重に審議をしていただきましたので、少し時間が押してしまいましたが、ありがとうございました。

ほかになれば、日程第1、議第1号 平成27年度中津川市教育委員会主要事業について、承認とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、次回の日程をお願いします。

【教企課長】次回は平成27年2月12日木曜日です。時間は午後1時30分から、会場は本日と同じ当にぎわいプラザ4-1会議室で開催します。

【委員長】以上で第1回中津川市教育委員会定例会を閉会します。

〔 閉 会 （午後5時04分） 〕